

東アジア平和への道 —米朝危機を考える—

2018年4月19日

@八王子市民活動支援センター

奈良本英佑



- 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）
 - 面積：12.5万km²
 - 人口：2528万人（2016年推定）
 - 国民総所得（GPI）：\$305億（2015年推定）

- 軍事

- 人民軍（推）：120万人（実質約80万）
- 多数の予備役
- 装備旧式、整備・訓練・燃料不足...
- 核・ミサイル開発で補う

- 大韓民国（韓国）

- 面積：10.3万km²
- 人口：5050万人（2016年推定）
- 国民総生産（GNP）：\$1兆3778億（2015年）

- 軍事

- 正規軍：65万人
- 予備役：450万人
- 米軍（国連軍）：3万人

始めに：朝鮮半島2018年

- 1月 1日 金正恩委員長新年演説「平昌冬季五輪に選手団送る」「核のボタンは卓上にある」
- 2日 トランプ「われわれの核兵器はもっと強力」
- 16日 カナダで国連軍派遣国など外相会議「圧力継続」で一致

2月 9日 平昌冬季五輪（～25日）

- ・金永南団長、金与正（金正恩の実妹）ら高位級代表団、訪韓（9日）
- ・北代表団と文在寅大統領が会談、南北首脳会談提案の親書（10日）
- ・南北統一選手団参加
- ・北朝鮮芸術団訪韓
- ・万景峰号の入港許可など、特別措置

朝鮮半島2018年（その2）

- 3月 8日 韓国「トランプ大統領、米朝首脳会談の提案受け入れを表明」
- 9日 平昌パラリンピック（～18日）
- 25日 金委員長、訪中、習近平主席らと会談（～28日）
- 28日 トランプ大統領、金委員長との会談が「楽しみだ」とツイート
- 30日頃 ポンペオCIA長官が金委員長と秘密会談
- 4月 1日 米韓合同演習「フォールイーグル」開始、米軍11,500人、韓国軍約30万人。空母は不参加、期間短縮
- 10日 北朝鮮・ロシア外相会談
- 11日 河野外相訪韓、文大統領らと会談、「圧力」強調
- 17日 安倍・トランプ会談で安倍「核・ミサイル破棄まで圧力かける。代償与えるな」。トランプ「会談がうまくいかなければ席を蹴る」

米朝危機解決を求めて

- 現在の「朝鮮危機」＝米朝危機の根本的な原因は、朝鮮戦争が継続していること。
- より直接的な原因は、大規模な米韓合同軍事演習
- これに対抗する朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）の連続ミサイル発射実験
- 危機解決の方法は、唯一、政治・外交交渉
- その方法は、南北対話・米朝協議など外交交渉再開
- 日本政府がやるべきことは、このような外交交渉再開を妨害しないこと

朝鮮戦争（背景）

- 朝鮮戦争の原因は複雑
 - 日本の植民地支配終了（1945年8月）と米ソの南北分割占領が舞台を用意
 - 朝鮮全土でさまざまなナショナリスト・グループが活動。
 - その中に、李承晩らに代表される親米派、金日成、朴憲英らマルクス主義者（スターリン主義者）など。
 - 日本の植民地支配と結びついていた旧勢力も活動
- その中で南・北に2つの政府成立（1948年）、いずれも全朝鮮半島「唯一の正統政府」を主張

朝鮮戦争（2）

- 1950年6月勃発の朝鮮戦争は、北朝鮮による南進から
- 米軍（「国連軍」）、中国人民義勇軍の参戦。
（USSRは空軍パイロット）
 - 膠着状態になり、38度線を軍事境界線とする**休戦協定**（1953年7月）朝鮮戦争の死者、300万人？
- 極東の冷戦体制の「完成」
 - 米軍駐留@韓国の恒久化
 - 米国軍事予算の「青天井化」
 - 米軍、韓国へ**核兵器持ち込み**（休戦協定無視、1958年）

休戦協定後の北朝鮮と韓国

- 戦後復興は、北朝鮮が優位、経済力、とくに工業力で韓国を凌駕（70年代まで）
- 韓国では、70年代、軍事独裁政権の下で経済発展に尽力（開発独裁）
- 南北和解へ最初の模索*も開始されるが・・・
- 一方で、**米韓合同軍事演習**（1976年開始）の恒例化
 - 1992年中止 ⇒ 93年再開 ⇒ 現在に至る
- 韓国、80年代、経済発展と政治の民主化闘争が並行

＊最初の南北共同声明（1972.7）
——高官同士の協議・合意、同時発表——

1. 民族的大団結により自主的・平和的統一
2. 誹謗中傷と武力挑発を避け、武装衝突回避のために積極的措置
3. 平和的統一に向けた多方面の南北交流を進める
4. 南北赤十字会談成功に向け積極的に協調
5. 突発的軍事事故防止のため、ソウル＝平壤にホットライン
6. 上記目的達成のため南北調整委員会を設置
7. 以上合意事項を誠実に履行

冷戦体制が残った朝鮮半島

- 90年代、USSR・東欧ブロックの解体で冷戦終結
 - 北朝鮮は、USSRなどからの経済・軍事援助の激減で経済困難、食糧危機
 - 韓国は、経済力で北を凌駕、政治の民主化進み文民大統領実現、軍事力でも北を圧倒
 - 北朝鮮は、「核の傘」消失と軍隊（軍備）弱体化に危機感。**核兵器とミサイル開発**に力点
 - 一方、南北国連同時加盟、南北首相会談、米朝協議、4者協議、6カ国協議など、政治・外交的解決の可能性も

平和解決模索の時代

- 90年代は、朝鮮半島危機から外交的解決模索の時代
 - 南北首相会談▼南北非核化宣言署名*（91年）、米韓合同軍事演習中止（92年）で平和解決の方向
 - だが、金泳三大統領政権成立（93年）で南北冷却化、合同軍事演習再開
 - 北朝鮮のNTP脱退宣言（94年）で危機高まるが、カーター元大統領訪朝で米朝和解へ
 - 米朝枠組み合意（同年）を経て、米朝協議、4か国会議など、平和解決に向けた枠組み構築**

* 南北非核化共同宣言

— 1992年1月 —

1. 南と北は核兵器の実験・製造・搬入・保有・配備・使用をせず。
2. 両者は核エネルギーを平和的目的に限定
3. 両者は核再処理施設とウラン濃縮施設を保有しない。
4. 両者は朝鮮半島の非核化検証のために、相手方が選定し双方が合意する対象に対して、南北核統制共同委員会が規定する手続きと方法で査察を実施する。
 - ① 南と北は共同宣言の履行のため、共同宣言発効後1か月以内に南北核統制共同委員会を構成・運営する。
 - ② この共同宣言は南と北がそれぞれ発効に必要な手続きをへて、その文書を交換した日から効力を発生する。

**米朝枠組み合意

— 1994年10月21日 —

- 北の黒鉛炉を軽水炉に置き換え
- 代償に、発電用・暖房用重油50万t／年を提供
- 政治・経済的関係の完全な正常化を目指す
- 米国は北に対する核兵器使用・脅しをしない
- 北は、92年の非核化宣言を実行
- 北は、NPTに留まり、IAEAの特別査察を再開
- 北の使用済み核燃料は再処理せず廃棄

(KEDO＝朝鮮半島エネルギー開発機構が設立されるが、US議会の抵抗で北への重油提供、経済制裁緩和とも進まず。枠組み合意は失敗)

「ネオコン政権」と危機の再来

- 2000年代、ブッシュII政権（01～08年）の下で、北朝鮮の危機感高まり、核実験、ミサイル実験加速
 - アメリカの9・11事件（01年）からアフガン攻撃、
「悪の枢軸」演説（02年）
 - アメリカ、イラク攻撃・占領（03年）
 - NATOのリビア内戦介入、カダフィ大佐処刑（2011年）
- 韓国の革新派（盧武鉉）政権、南北会談・共同宣言（00年）*、日朝平壤宣言（02年）など、緊張緩和への動きも
- しかし、韓国政権の保守化（李明博）や日本政治家の拉致問題政治利用などで、緊張激化

* 南北共同宣言（2000年）

金大中大統領、平壤訪問

1. 国の統一問題を、互いに力を合わせ自主的に解決
2. 南側の連合体案と、北側の連邦制案には共通性。今後はこの方向から統一を指向。
3. 南と北は、今年の8.15の頃に、離散家族の訪問団交換など、人道的問題を早急に解決。
4. 南と北は経済協力、民族経済を均衡的に発展させ、社会、文化、体育、保健、環境など諸般の分野の協力と交流を通じ信頼醸成。
5. 以上の合意事項の迅速な実践のため、早期に当局間の対話を開催。

• 金大中大統領は金正日国防委員長がソウルを訪問するよう丁重に招請し、金正日国防委員長は今後、適切な時期にソウルを訪問することにした。

2000年6月南北首腦會談



* 南北共同宣言（2007年）

盧武鉉大統領・金正日国防委員長

1. 南と北は 6.15共同宣言を固守、積極的に具現
2. 思想と制度の差を超越、南北関係を相互尊重と信頼関係に
転換
3. 軍事的な敵対関係を終息、緊張緩和と平和保障のため緊密に協力
4. **停戦体制を終息、恒久的な平和体制を構築**の必要性を認識。直接関連する三者、もしくは四者の首脳が会い協力
5. 民族経済の均衡的発展と共同の繁栄のため、経済協力事業を拡大、発展
6. 民族の悠久の歴史と優秀な文化を輝かせるために、社会文化分野の交流と協力を発展
7. 人道主義協力事業を積極的に推進
8. 国際舞台で民族の利益と海外同胞たちの権利と利益のための協力強化

2007年10月南北首腦會談



米韓合同軍事演習（参考画像）



朝鮮・東アジアに平和は来るか？

- オバマ政権（09年～16年）も、極東の緊張緩和へ積極的に動かさず
 - 「戦略的忍耐」政策——北の崩壊を待つ？
 - 核・ミサイル実験と米韓合同軍事演習の応酬——互いに様子見
- 2017年のトランプ政権下で緊張激化
 - 核実験、連続ミサイル実験、米韓軍事演習拡大、米朝首脳の舌戦エスカレート
- 2018年、平昌オリンピックを機に南北和解の流れ、緊張緩和へ

終わりに一希望と不安

- 4月27日 南北首脳会談
 - 実現すれば 2000年6月（金大中＝金正日） 2007年10月（同）に続いて3回目
 - 成功すれば、平和への希望
- 6月までに初の米朝首脳会談
 1. 実現――平和への新たな第一歩
 2. 実現せず――緊張の継続？ 悪化？
 3. 決裂――緊張の悪化、最悪では武装衝突⇒戦争（不安材料、タカ派増強のトランプ人事）
- 東アジアの平和を妨げているのは誰か？

ご清聴ありがとうございました